

海の路

vol.
36

S E A R O A D 2 0 2 4

S E A R O A D 2 0 2 4

会員構成

大阪ブロック

大阪府 泉佐野市
大阪府 泉南市
堺市 阪南市
岸和田市 忠岡町
泉大津市 田尻町
貝塚市 岬町
高石市

徳島ブロック

徳島県 小松島市
徳島市 阿南市
鳴門市 松茂町

香川ブロック

香川県 三豊市
高松市 土庄町
丸亀市 小豆島町
坂出市 直島町
観音寺市 宇多津町
さぬき市 多度津町
東かがわ市

兵庫ブロック

兵庫県 相生市
神戸市 加古川市
姫路市 赤穂市
尼崎市 高砂市
明石市 南あわじ市
西宮市 淡路市
洲本市 たつの市
芦屋市 播磨町

愛媛ブロック

愛媛県 伊予市
松山市 四国中央市
今治市 西予市
宇和島市 上島町
八幡浜市 松前町
新居浜市 伊方町
西条市 愛南町
大洲市

和歌山ブロック

和歌山県 湯浅町
和歌山市 広川町
海南市 日高町
有田市 由良町

周防灘ブロック (山口・福岡・大分)

岡山ブロック

岡山県 笠岡市
岡山市 備前市
倉敷市 瀬戸内市
玉野市 浅口市

山口県 福岡県
下関市 北九州市
宇部市 苅田町
山口市 大分県
防府市 大分市
岩国市 別府市
光市 佐伯市
柳井市 中津市
周南市 臼杵市
山陽小野田市 津久見市
周防大島町 国東市
上関町 姫島村
平生町

広島ブロック

広島県 大竹市
広島市 東広島市
呉市 廿日市市
竹原市 江田島市
三原市 海田町
尾道市 坂町
福山市 大崎上島町

国会員

近畿地方整備局 九州地方整備局 中国運輸局
中国地方整備局 近畿運輸局 四国運輸局
四国地方整備局 神戸運輸監理部 九州運輸局

協議会Webサイト「海の路」



<https://www.uminet.jp>

海の路 vol. 36
S E A R O A D

発行/瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会事務局



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

巻頭言



田中 利明 佐伯市長

会員の皆様におかれましては、平素より瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の活動にご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年5月、大分県佐伯市にて「令和5年度瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会(総会・首長サミット)」が、実に4年ぶりに対面にて開催されました。

本協議会には、瀬戸内沿岸各地域より総勢15市町村の首長をはじめ、近畿・中国・四国・九州から多くの関係者の皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。

本協議会の第1部(総会)では、令和4年度の事業・収支決算報告と令和5年度の事業計画・予算案などが議論され、瀬戸内地域の交流・連携・地域振興・防災にかかる支援制度の活用などについて決議されました。

また、本協議会の骨格事業である「リフレッシュ瀬戸内」では、令和4年6月～8月において、全2,09箇所、約21,000人のボランティアの方々にご参加いただき、約115トンのゴミを回収することができました。

美しい海、美しい海岸を自身の手できれいにしていくという意識を高めていく上で、大変意義深い取組であると思います。

第2部(首長サミット)では、「瀬戸内の魅力発信と観光振興」国際クルーズ再開、大阪・関西万博を契機に」と題して、各首長及び国会議員の幹部から地域の取組状況が紹介されました。各首長からは、「地元のイベントや産業等と連携した観光資源づくり」、「クルーズ船の受入環境の強化」、「インバウンド回復の近況報告」等、地域活性化に対する強い思いが語られ、国からは「G7サミットや関西万博を契機とした瀬戸内海のインバウンド効果の拡大」、「オーバーツーリズムに対応した小型クルーズ船を活用した瀬戸内の島を巡るツアーの構築」、「各自治体の取組を踏まえた観光振興への支援」等の発言があり、有意義な意見交換が行われました。

今後も、瀬戸内・海の路の地域振興に努めるとともに、瀬戸内のおお一層の魅力発信により、更なる会員相互の絆と、連携を図りながら、瀬戸内地域全体の発展に取り組んで参りますので、皆様の益々のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

令和5年度総会

令和5年度総会

令和5年5月12日(金)大分県佐伯市にて、「令和5年度 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会(総会・首長サミット)」を開催いたしました。総会には、瀬戸内海沿岸各地から15市町村の首長と会員である各自治体及び地方整備局等の担当者約110名が参加して開催されました。

第1部の総会では、令和4年度の事業報告・収支決算報告と今年度の事業計画・収支予算案等について審議が行われ原案どおり可決されました。



第2部では、第14回瀬戸内海首長サミットが13市町村の首長参加により開催されました。瀬戸内の魅力発信と観光振興「国際クルーズ再開、大阪・関西万博を契機に」とをテーマに、観光地域活性化に関する活発な議論が行われました。

総会議事



田中利明 大分県佐伯市長

総会の開会にあたり、協議会会長・開催地市長である田中利明様より、「本日はご多用にもかかわらず、15市町村長をはじめ、会員ならびに多数の関係者にご出席を賜り、誠にありがとうございます。」と挨拶を申し上げます。

令和元年の山口県宇部市開催以来、会員が一同に会しての開催は実に4年ぶりでございます。衷心より感謝・お礼を申し上げます。また、ご来賓として大分県副知事の吉田一生様、国土交通省港湾局産業港湾課長の西尾保之様におかれましては、ご臨席を賜り誠にありがとうございます。

本協議会は、平成3年5月に設立され、本年で32年を迎えました。現在、107団体の市町村、11団体の府県、9団体の国が会員となっております。

まず、最近の協議会活動としては、「リフレッシュ瀬戸内」では水をきれいに豊かな瀬戸内の海をキャッチフレーズに、海岸清掃を多くのボランティアの皆様方のご協力の下、実に29年間にわたり実施され、これまで約207万人の参加と約19,300トンのごみを回収しています。

また、防災ネットワークでは災害時の地域間の救助を目的とした「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に係る協定」は現在78会員が締結しており、機能強化を図っています。

第2部の「第14回瀬戸内海首長サミット」では「瀬戸内の魅力発信と観光振興」国際クルーズ再開、大阪・関西万博を契機に」とをテーマに、各地域のさまざまな取り組みを紹介いただき、有意義なものになることを願っております。

今後も当協議会の一層の発展のため、会員の皆様からお寄せいただきました、ご提案や地域の要望を協議会の活動に生かしてまいりますので、格段のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、地元市長として7万市民を代表して、歓迎の言葉を申し上げます。佐伯市は1601年(慶長6年)に毛利高政公という豊臣秀吉公の小姓でありました殿様が、日田からこちらに移ってきまして、2万石の城下町をつくった町でございます。佐伯の殿様、浦でもつ。浦の恵みは山でもつ」と言うぐらゐ、自然に対して一草一木を勝手に切るなど。山は海にとっても重要な拠点であり、その山の恵みが海の恵みにつながると。石高は2万石でありました。海産物等にも恵まれ全国にかけて商売をして5万石の力があつた町でございます。1777年に8代殿様の毛利高標公は四教堂という佐伯の藩校を建て、長崎で世界の奇書を実に88,000冊集め佐伯文庫を設立しました。この江戸の3大書者大名と知られる毛利高標公は、大変この地には重大

令和5年5月12日(金) 大分県佐伯市

治政の基盤がございまして、非常に優秀な人材が佐伯から世界に向かって飛び立っているところございまして。

歴史を振り返れば、神武の統制以来、この神武天皇がこの佐伯の大入島という島に立ち寄って、佐伯の港から大阪、和歌山を通りながら、日本全国の大和朝廷を建立しております。戦前は、特に軍港として栄えた町でもございまして。戦後は海軍産業都市、漁船、海軍、水産業等、輸出港湾の都市として県下第2の力を持っておりまして、昭和50年代に構造不況がございまして、それ以来、人口減少、少子高齢化という課題を抱えながら現在頑張っているところでもございまして。私は人口減少の問題は、国、県、市が一体となって対応すべきもので、人口の数だけが問題ではなく、人の質・密度・交流を深めながら観光産業を興していく必要があると思っております。

そのため、海上輸送で大量に人が来てくれる手段として、クルーズが有効だと思っております。しっかりとしたクルーズ戦略を持ちながら、この町の発展のため、また佐伯市と関わる地域の方々のためにも頑張っていきたいと決意しているところでございます。

今日は、佐伯の魚尽くしで、お手元にも佐伯市の鶴見「おさかな百科」を配布しております。実に350種類もの魚が生息しており、養殖分野も非常に盛んな町でございまして。ヒラメは日本一の養殖、ブリは全国第2位、マグロは全国第6位の生産高を誇っております。魚や海とともに栄えてきたこの町は自然の恵み、オーガニック水準を目指している町でございまして。どうぞ、今日、明日、皆様方の食や歴史的な出会いを楽しんで



西尾保之 国土交通省港湾局産業港湾課長

関係の皆様、ご出席の下で盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。また、皆様におかれましては日頃より国土交通行政と

でいただきながら、ゆっくりとお過ごし頂けたらと思っております。

本日の総会に当たりまして、国土交通省をはじめ、皆様方のお力添えを賜りまして、ここから挨拶をしております。ご出席の皆様方のご健勝とご活躍を祈念しまして、主催者挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いたします。との御挨拶をいただきました。



吉田一生 大分県副知事

続いて、来賓挨拶として、佐藤樹一郎知事代理の大分県副知事の吉田一生様より、「本日は4年ぶりの現地開催となりました瀬戸内・海のパワーアップ推進協議会の令和5年度総会がこのように盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。また、瀬戸内海沿岸の各地からご来県いただきました皆様を心から歓迎申し上げます。

田中会長をはじめ、会員の皆様方には瀬戸内における新たな文化の創造や観光の振興、魅力発信等による瀬戸内地域全体の更なる発展に多大なご尽力をいただき、深く敬意を表する次第でございます。

また、本日ご多忙のところご出席いただきまして、国土交通省港湾局産業港湾課の西尾課長様には、日頃から本県の港湾行政に多大なご支援・ご協力をいただいておりますこと心から御礼を申し上げます。さて、瀬戸内海に面する本県は関西、中国、四国

ご理解・ご協力をいただいておりますことをこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。本協議会は平成30年5月に設立されて以来30年以上の長きにわたり、関係の皆様のご尽力によりさまざまな活動をしてこられました。海をきれいにする「リフレッシュ瀬戸内」、地域活性化イベントを支援する「海ネットイベントプランコンテスト」、また、災害時における相互応援の体制作りなど、極めて有意義かつ実効性のある活動を継続的に実施されていることに対し、心から敬意を表するところでございます。

さらに、昨今のクルーズ需要を地区内に取り込むために、平成30年度には「瀬戸内海クルーズ推進会議」を設立しまして、瀬戸内海クルーズの活性化に向けた取り組みを推進されており、その結果、瀬戸内海へのクルーズの誘致につながり、大きな成果が出ていますと承知しております。クルーズにつきましては2020年3月から停止してございました外航クルーズ船の運航が、本年3月から3年ぶりに再開をされました。コロナ前には年間250万人規模の訪日クルーズ旅客を受け入れておりましたので、できるだけ早くコロナ前の水準に回復させたいと考えております。

また、クルーズは国内外のまとまった一定規模の旅行観光客を、直接近隣の港に係留して受け入れることができることから、地域の観光振興に大いに寄与するものと考えております。国土交通省港湾局としましては、今後も観光庁とも連携をしてポストコロナを見据えた受け入れ環境促進事業として、快適で安全・安心な旅行環境の整備に資する支援を行ってまいります。

地方へのフェリー航路があり、九州の中長距離フェリーの8割以上が発着しています。一方、陸路では東九州自動車道が平成28年4月に北九州市から宮崎市までつながり、陸路と海路が結節する位置にある本県はまさに九州の東の玄関口として、人・ものが集積する地域としてポテンシャルが高まっております。

現在、本県では多くの人・ものが本県を介して九州内外を行き来する状況を作り出すことで、経済の活性化、雇用の創出等を促進し、地方創生を加速することを目指して、九州の東の玄関口としての拠点化戦略を策定し、拠点化形成に向けて取り組みを推進しているところであります。

しかしながら、ここ数年は新型コロナウイルスの影響により、フェリーやクルーズ旅行客が大きく減少し、観光業界に大きな打撃を与えたところではあります。本年3月には新型コロナウイルスの感染拡大により中断していた国際クルーズ船の県内寄港が約3年ぶりに再開し、4月には6隻の外航クルーズ船が別府港に寄港しており、観光消費が地域に大きな経済効果をもたらすと期待しているところであります。

さらに、2025年には大阪・関西万博が開催されることから、インバウンドの本格的な回復と瀬戸内への誘客を促進するため、質の高い魅力的な観光周遊ルートの構築とともに、効果的な情報発信にもしっかりと取り組んでいく必要があります。このような取り組みをより一層進めていくためには個々の自治体の頑張りに加えまして、瀬戸内海各地域との相互の連携が重要と考えておりますので、今後とも皆様のご協力と応援を賜りたいと存じます。

また、大分県は豊かな自然により育まれる食の宝

本日、お集まりの皆様におかれましては、地域の観光コンテンツの発信などに至っては、こうした事業を活用いただければと考えております。どうぞ、気軽に地方整備局や地元の直轄事務所にもご相談いただければと思っております。

結びになりますが、本協議会の活動にご支援・ご指導を賜っております国会議員の先生方、また田中佐伯市長様をはじめとする、本日の協議会の開催にご尽力をいただきました協議会の関係者の皆様方に深く感謝を申し上げますとともに、貴協議会の益々のご発展と、本日ご出席の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



川野幸男 大分県津久見市長

ございました。との御挨拶をいただきました。

総会議事については、議長に選出された、大分県津久見市長の川野幸男様の議事進行により、令和4年度の事業・収支決算報告、令和5年度の事業計画・予算案などの7議案について審議が行われました。

令和4年度においては、「リフレッシュ瀬戸内」の参加人数の拡大を図るための活動や、会員同士の連携や瀬戸内地域の交流・連携、地域振興の取組が積極的に展開されるよう「海ネットイベントプランコンテスト」等の各支援制度の活用推進、令和6年度総会を大阪府堺市で開催することなどが決議されました。

第14回 瀬戸内海首長サミット

令和5年5月12日(金) 大分県佐伯市

「瀬戸内の魅力発信と観光振興」国際クルーズ再開、大阪・関西万博を契機に



佐伯市長 田中 利明

海山の恵みを100年後にも残していこうと、「浦100」のコンセプトで観光プランディング。近隣都市と連携し、春はマグロ、夏は岩ガキ、秋は伊勢えび、冬は食の七福神など、年間を通して食のキャンペーンを展開している。また、佐伯の魅力を活かす取組として、サイクルツーリズムにも注力。「ツール・ド・佐伯」が定着し全国から多くのサイクリストが参加している。今後も、広域的なスケールメリットを活かして観光誘客を図っていききたいと考えている。



大分市長 足立 信也

フェリーターミナルがある西大分地区には、多様な観光レクリエーション施設が集積しており、来年には新たな交流拠点施設「たのうらら」がオープン予定。フェリーターミナル周辺の観光資源を活用する必要がある。また、工場夜景人気を踏まえ、沿湾沿いの工場夜景を眺めるクルーズができないか考えている。今後は、交流人口を増やすことが地方の取り組みの中心になると思っている。万博の観光需要を取り込み反転攻勢していきたい。



国東市長 松井 智治

国東市は、1,300年の歴史を持つ六郷満山文化から、未来につながる宇宙港や現代アートまで長い時間軸を持つ観光資源と、海と山の食材、奇祭や石造文化など豊富な地域資源が魅力。今後は、六郷満山の僧侶たちが行う奉入りの修行道をベースとした峯道ロングトレイルなどのアクティビティとお寺や現代アート巡り、山海の幸を使った料理などを有機的に結びつけ、富裕層の訪日外国人客呼び込み観光地づくりを進めていく。また、徳山港からのフェリーを活用したルートも期待。



姫島村長 藤本 昭夫

姫島村は、「火山が生み出した神秘の島」をテーマに「日本ジオパーク」に認定され、「瀬戸内海姫島の海村景観」として「国の重要文化的景観」に選定されている。「国の天然記念物」の「姫島の黒曜石産地」観音崎をはじめ珍しい石や地質、地形があり、別名「地質の博物館」と呼ばれている。国選択無形民俗文化財の、「姫島の盆踊り」、「姫島車えび祭り」、島を一周する「ジオクルーズ」等のイベント、全国的に有名なグルメ「姫島車えび」等、姫島は魅力一杯です。



苅田町長 遠田 孝一

苅田町は港に沿って臨海工業地帯が広がり、セメント産業や自動車産業をはじめとした企業が進出している。完成自動車の工場や、3社が立地するバイオマス発電所の見学等の産業観光と併せ、全国屈指の規模を有する古墳等の歴史遺産の文化観光の提供が可能である。また、万博を契機とした新たな周遊ルートの形成として掲げられている、フライ&クルーズについても、北九州空港を活用した商品の造成が出来ると考えている。今後、観光の面からも港の振興に努めてまいりたい。



津久見市長 川野 幸男

日本最大の石灰石工場を活かして、観光庁の支援によりVRを使った体験に取り組むなど、産業観光に力を入れている。また、津久見港にあるみなとオアシス津久見は多くの家族連れで賑わっており、すぐ隣には観光交流拠点となる道の駅の整備を検討している。ミカン栽培やマグロ漁業の歴史、宇宙塵の入ったチャートなど津久見ならではの観光資源を活かして、他市と連携した観光振興に取り組んでいきたい。



別府市長 長野 恭紘

観光客は、ほぼコロナ禍前の水準に戻りつつあり、これからの反転攻勢。さんふらわあの新造船が豪華客船のようでお客さんに非常に好評。海からの入り込みに期待している。また、大阪観光局、松山市、別府市の3市で連携して、大阪・関西万博に向けた観光需要の取り込みを行っている。地元としては観光コンテンツをしっかり磨き上げ、経済効果や満足度を高めていきたいと思っている。



伊方町長 高門 清彦

三崎港は、大分の佐賀関港との間を70分で結んでおり、八幡浜と並んで四国と九州を結ぶ重要な拠点となっている。三崎港の乗降客が年間50万人、八幡浜港が70~80万人のため、一緒になって活性化していきたいと思っている。松山から大分、九州へ向かうルート上にある地の利を生かし、少しでも関心を持っていただき、観光そして滞在、そして将来的には永住に結び付けていけたらと思っている。港の開発は伊方にとっての生命線の一つであると考えている。



玉野市長 柴田 義朗

宇野港は、香川県の直島等へのアクセスが便利であるため、インパウンドの外国人を含め多くの観光客が訪れている。今春から、外航クルーズ船も寄港を再開しているが、岡山後楽園や倉敷への観光が主で、地元の観光地、飲食、宿泊にどう繋げるかが課題。2025年の大阪・関西万博、瀬戸内国際芸術祭と合わせて、世界的な建築家「妹島和世氏」が設計したパワーエックス社の日本最大級の蓄電池工場を中心に、玉野周辺の製造工場等をオープンファクトリー化し、アートと産業の融合による観光振興の構想を進めている。



由良町長 山名 実

由良町には2億5,000万年前の石灰岩でできた白崎海岸や鍾乳洞があり、多くの観光客が訪れている。由良町は極早生みかん「ゆら早生」発祥の地であることや、鎌倉幕府3代将軍、源実朝の菩提を弔うために建てられた興国寺があり、醤油の元となった「金山寺味噌」伝承の寺であるが、まだ知られていない。最近では香港からのバスツアーも入っており、大阪万博に合わせてより多くのインパウンド客を取り込めるように、瀬戸内海の魅力、由良の魅力発信していきたいと思っている。



今治市長 徳永 繁樹

しまなみ海道の架橋に伴い今治港では「交流のみならず」として新たな役割を担うこととなり、小型クルーズ船の誘致やせとうちみなどマルシェの開催など港の賑わい創出に取り組んでいる。月に2回開催しているマルシェでは、今治の特産品等が100店舗以上集結し多い時には約2万人の集客となっている。これを文化として定着をさせていきたいと思っている。また、ナショナルサイクルルートを活用したインパウンドの取り込みを加速していきたいと考えている。



坂出市長 有福 哲二

香川県の島々を舞台に3年に1度開催されている瀬戸内国際芸術祭は、現在ではアジア・ヨーロッパをはじめ世界中から注目されている。次回開催は2025年であり、まさに大阪・関西万博との相乗効果を大いに期待しているところ。坂出駅周辺再整備基本構想では、坂出港発祥の地である西運河地区において、貴重な水辺を生かした親水空間を創出し、歩きたくなるようなウォークアブルなまちづくりを実現したいと考えている。



八幡浜市長 大城 一郎

昨年、四国初のSea級グルメ全国大会を開催し大勢の方に来ていただいた。八幡浜市では2025年まで、マーメイドの世界大会を開催するので、万博に来られる世界のお客さまを八幡浜に呼び込みたい。また、八幡浜港などが有名映画のロケ地になっており、世界に発信されているので、外国人のロケ地巡礼も狙っていききたい。関西から松山空港経由で八幡浜に入り、地元料理を堪能し宿泊。翌日、フェリーで別府に渡り大分空港から帰るルートが大変人気。今後もフェリーを活用した観光を創造していきたい。

現地視察

海ネット総会・首長サミットの翌日13日は、佐伯市本匠の大水車、麴の社「ぶんご」銘醸株式会社の視察を行いました。

■佐伯市本匠の大水車

その昔、佐伯市本匠には谷あいの豊富な水を利用した数多くの水車が随所に見られ、脱穀・精米・糲摺（もみすり）などの、農作業の動力源として活用されてきました。しかし、時代とともにその役目を終え、次々に姿を消していきまし。本匠の大水車の再現には、本匠村のこのような時代背景がありました。大水車が完成した1995年（平成5年）当時は日本一の大きさを誇りましたが、現在は西日本最大級となり、本匠のシンボルとして親しまれています。水車の直径は18.18mで、6階建てのビルと同じ高さです。樹齢70〜100年といわれる杉の木を使っています。



また、大水車のまわる小半森林公園キャンプ場は、ユニークな施設として全国的に脚光を浴びるとともに、九州屈指の清流「番匠川」のモニユメントとしての役割を果たしています。

■麴の社「ぶんご」銘醸株式会社



飲む点滴として人気の高い甘酒や、塩麴などの原料である「麴（こうじ）」の全国的なブーム到来（2016年頃）により、佐伯市直川にある明治43年創業の酒造メーカー「ぶんご銘醸株式会社」が、麴や甘酒の魅力を多くの方々に知ってもら

う為、また、地域活性化に貢献したいという強い思いから「見て・さわって・味わって・お買い物も楽しめる、麴づくしの観光工場」をコンセプトに西日本で唯一の見学無料のあまざけ工場とファクトリーショップ「麴の社」をオープン（2019年3月）しました。

工場見学では、自家製乾燥米麴の製造工程や、完成したあまざけのボトル詰めの様子などを見学でき、見学後は、出来立てのあまざけの試飲もできます。また、隣接するファクトリーショップでは、あまざけを使ったスイーツや塩麴を使ったオリジナル商品などの工場直送の販売を行うほか、カフェスペースも併設されています。

■さいき海の市場（まる）

大分県唯一の水産都市として知られる佐伯市のシンボリックなスポットである魚市場周辺に位置する人気の物産館です。海産物の加工品のほか、地元の農産物や佐伯ごまだし等の特産品を中心とした大分県内の地産地消商品を販売しています。中でも干物は絶品で「最高品質の干物が揃う、干物マーケット（公式HP）」として、お土産の人気スポット



となっており、年間16万人が訪れます。

また、併設される施設の鮮度番号では、その日水揚げされたばかりの新鮮な魚介類のほか、地魚のお刺身、海鮮丼などを販売しており鮮度の高さが魅力です。特に寿司バイキングは、店内で握られた寿司を自分の好みに合わせて選ぶことができ、2階のイトインスペースで食事を楽しむことができるため、人気のコーナーとなっており、当日の視察でも大変好評でした。

令和5年度 担当者会

令和5年11月13日(月) 広島県尾道市



令和5年11月13日(月)〜14日(火)の2日間、広島県尾道市にて、瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会担当者会を開催しました。

開会

13日の会議には、尾道市の平谷市長をはじめとする全48団体（総勢81名）が参加し、今年度の活動報告や来年度の総会提案事項に向けた活動方針等について議論が行われました。また、14日に行われました現地視察では、市内のONOMICHI U2や平山郁夫美術館を視察しました。



尾道市長 平谷 祐宏

の事業計画についてご承認をいただいた。首長サミットにおいては、「瀬戸内の魅力発信と観光振興」国際クルーズ再開、大阪・関西万博を契機に「有意味なものとなった。本日の担当者会は、今年度の取組の報告と、次年度の取組に向けたスタートという位置付けであり、担当者の皆様には、率直なご意見を頂くとともに、中身の濃い議論をお願いしたい。」との開会挨拶をいただきました。

次に、開催地を代表して、尾道市平谷市長より、「尾道市は、広島県の東南部に位置し、北部の自然豊かな田園地帯から、商都として栄えた尾道水道周辺、そして村上海賊が駆け巡った南部の島嶼部まで、さまざまなまちなみ・しまなみと変化に富んだ市域を有している。人口は約13万人。平成30年には市制施行120周年、令和元年には尾道港開港850年を迎えた歴史と文化のあるまちである。」

また、平成27年には「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」、平成28年には、「日本最大の海賊の本拠地…芸予諸島・よみがえる村上海賊『Murakami KAIZOKU』の記憶…」さらに平成

30年には「荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間」北前船寄港地・船主集落」として、3つの日本遺産にも認定されている。自然の良港を持つ尾道は、平安時代に荘園米の積み出し港となつて以来、対明貿易や北前船、内海航行の寄港地として、中世・近世を通じて繁栄をとげた。港町・商都としての発展は各時代に豪商を生み、多くの寺社仏閣の寄進造営が行われ、山手には25か寺を数える神社仏閣が建立されている。その神社仏閣を這うように路地が入り組んでおり、坂のまち、映画のまちとしても名を馳せている。このように、尾道は、まさに海・港とともに発展してきたまちである。

さらに、尾道糸崎港尾道地区は、平成11年のしまなみ海道開通により、広域交通拠点としてのポテンシャルが高められた。しまなみ海道は、尾道と四国の今治をつなぐ、日本で唯一、自転車や歩いて渡る高速道路であり、平成31年にはナショナルサイクルルートの指定も受け、国内外から数多くのお客様がサイクリングに訪れる。

瀬戸内海においては、ほかにない多島美や歴史資源、また、こうしたサイクリングなど魅力あるコンテンツが多数ある。それらもあって、本市においては、今年5月に外国クルーズ客船も初寄港した。

瀬戸内・海的路ネットワークということで、ここにお集りの皆様と一緒に、連携を図ることで、瀬戸内エリアの更なる振興に繋がることを期待している。」との歓迎挨拶をいただきました。

全体会

全体会(第一部)では、令和5年度の事業報告として、これまでの会員活動への支援の申請状況と予算執行状況について報告がありました。

事務局からは、申請事業の説明として「瀬戸内海活性化活動支援」、「瀬戸内海クルーズ推進活動支援」、「リフレッシュ瀬戸内全体拠点環境関連連行事等連携支援」、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」、「防災対策推進活動支援」について紹介し、引き続き募集についてのご案内とともに、「担当地整とも相談の上、積極的なご活用をお願いいたします。」と説明がありました。

また、次年度の総会について「大阪府堺市にて開催、担当者会については九州管内で開催予定のため皆様の参加をお願いいたします。」との説明がありました。

各実行委員会終了後の全体会(第二部)では、実行委員会での議論の内容報告、および令和6年度の活動内容についての方向性が提示されました。

各実行委員会においても担当者から活発な意見や質問が交わされ、瀬戸内海地域の振興・発展について議論を行いました。

なお、各実行委員会である「魅力検討委員会」「環境事業委員会」「情報発信委員会」「防災委員会」での議論の内容は以下のとおりです。

分科会

魅力検討委員会

魅力検討委員会では、令和5年度の活動状況と令和6年度活動方針について議論しました。

令和5年度活動報告として、「海ネットイベントプランコンテスト」、「瀬戸内海・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」に関して報告を行いました。

情報発信委員会

情報発信委員会では、活動方針として、海ネットの活動の成果などを効果的に情報発信することにも、より多くの方々に瀬戸内の魅力を認識していただき、興味をもってもらえるような情報発信を目指していくことを確認しました。

令和5年度は、引き続き各地のイベントの年間予定を予め集約した上で、その情報をもとにイベント情報の掲載を促すなど、情報発信の強化に取り組みました。また、海ネットの公式SNSアカウント(Instagram、X)を開設し、瀬戸内海の魅力やイベント情報の発信を開始しました。

また、当サイトの閲覧状況を分析すると、アクセス数は長期的には増加傾向であるものの前年度から僅かに減少したことから、集約方法や発信方法の工夫によるイベント情報の充実や、アクセス数が多い情報をSNSで発信しWEBサイトへの誘導を図るなど、更なる情報発信が必要であることを確認しました。

意見交換では、特にSNSによる情報発信について、投稿頻度、文章構成、タグ付けなどのテクニカルな意見や、類似のタグへの「いいね」やフォロワー、共通のタグを用いたキャンペーン実施などフォロワー獲得のための意見があり、今後の活動に取り入れることを確認しました。



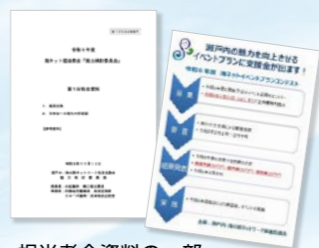
防災委員会

防災委員会では、令和5年度の活動報告及び令和6年度の活動方針について議論を行いました。

令和5年度の活動報告としては、①防災委員会活動内容等の情報発信について、②防災対策推進活動支援事業の制度の周知について、③実効性の確保に関わる活動(情報伝達訓練)について報告を行いました。

①情報発信については、WEBサイト「海の路」を利用し、防災委員会の活動計画を掲載している点

令和6年度活動方針として、瀬戸内海の特徴を活かしたイベントへの積極的な支援や、瀬戸内海の魅力の発信と会員相互間の交流・連携推進により、瀬戸内海の路の利用促進を図ることを確認しました。



環境事業委員会

環境事業委員会では、事務局より令和5年度の活動報告及び令和6年度の活動方針について提案を行い、その後主要事業として継続実施している「リフレッシュ瀬戸内」及び「海の健康診断」のあり方について意見交換を行いました。

事務局より令和5年度の活動報告として、「リフレッシュ瀬戸内」については別の清掃活動の実施や新型コロナウイルスを機に清掃活動の規模縮小や取りやめを行った市町村もあることから、参加人数は減少傾向にあるものの、実施箇所数はコロナ前に戻りつつあり、瀬戸内海沿岸各地の213箇所、約2万1千人のボランティアにより、約175トン

について報告しました。

②防災対策推進活動支援事業の制度について、WEBサイト「海の路」を通じて広報活動を行っていることを報告したほか、当制度の利用を呼びかけました。



③令和5年10月に実施した情報伝達訓練後のアンケート結果を報告しました。

現地視察

翌日14日は、ONOMICHI U2、平山郁夫美術館の視察を行いました。

《視察先の紹介》

ONOMICHI U2

ONOMICHI U2は、しまなみ海道でのサイクリングの拠点として知られる複合施設です。サイクリストをはじめとする観光客や市民のにぎわい創出を目的として、老朽化の進んだ県営上屋2号を官民連携により改修し、ホテル、レストラン、サイクルショップなどを整備したもので、令和6年3月には設立10周年を迎えます。

施設内には、日本初の自転車でチェックインできるホテル「Hotel Cycle」があります。世界中のサイクリストから注目されており、欧米からはマイ自転車

のゴミを回収したことを報告しました。また、全体拠点地の高砂市においては、海岸清掃に加えアマモの種植え体験を含むブルーカーボン育成講座、海ごみ(海洋プラスチックごみ)削減に向けたベクトルリサイクル事業の紹介など、環境関連活動を実施した旨も併せて共有し、このような活動が環境を考える機会を生み出し、また、参加者拡大にも寄与していると報告しました。「海の健康診断」についても全9箇所を実施し、この結果を参考にしながら今後の取り組み方針及び環境改善の方策についても検討を継続していくことを報告しました。

令和6年度の活動方針としては、更なる参加者の増加を目標とし、例年通りポスター・HP等での宣伝活動を行うほか、効果的な宣伝活動の1つとして環境関連行事等との連携活動を実施し、より効果的な宣伝活動を行った場合は、費用の一部を協議会から支援し、活動を助成することを確認しました。

意見交換の場においては、「リフレッシュ瀬戸内」について各地域における現状や課題について議論しました。現状として参加人数はコロナ禍以降回復しつつあり、また「リフレッシュ瀬戸内」に加えて、地域清掃の実施やポイ捨ての減少等により海岸が綺麗になっているとの意見が挙がりました。また、一般の参加者や小中学校にまでターゲットを拡大したいとした上で、参加者を拡大するにあたっての課題について議論しました。また、参加者拡大につながる取り組みとして実施された海岸沿いのカフェ、アパレル企業と連携した清掃活動について、実施に至った経緯、活動状況等を共有しました。



令和6年度も引き続き「リフレッシュ瀬戸内」及び「海の健康診断」を継続していきます。



ONOMICHI U2



「Hotel Cycle」の一室

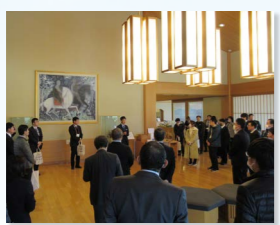
平山郁夫美術館

尾道市瀬戸田町出身の平山郁夫氏は、広島での被爆を体験したことから「仏教伝来」を初めとする平和を願う作品を多く描いた画家です。仏教がもたらした日本文化の源流を求めて、トルコやアフガニスタンなどのシルクロード関係国取材し、創作活動を行いました。

さらに、文化財の保護活動にも積極的に参加し、「文化財の赤十字構想」を掲げたことでも知られています。

ここでは、平山氏の心に大きな影響を及ぼした瀬戸内の神秘的な潮の流れや群青色の海を描いた作品など、少年時代から晩年まで、時代の経過に沿って見学しました。

また、館内から見える庭園は瀬戸内海の風景を表しており、中央の島は、NHK人形劇「ひよっこりひよたん島」のモデルと言われているようです。(諸説あり)



平山郁夫美術館の見学



瀬戸内海の風景を表した庭園

令和5年度活動報告

魅力検討委員会

「海ネットイベント プリンコンテスト」の実施

瀬戸内の豊かな自然環境や歴史的な地域文化の保全・継承、瀬戸内ブランドの価値の向上など、オリジナリティ溢れる地域活性化イベント等への支援を行うため、「海ネットイベント プリンコンテスト」を実施しています。

「海ネットイベント プリンコンテスト」は、会員が瀬戸内の魅力を向上させるイベントプランを企画・応募し、全会員の審査投票により支援イベントを決定するものであり、これまでに無い先進的なイベントの実施、継続的に実施しているイベントの発展、会員間の情報交換の促進などの効果が期待されるものです。

なお、令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期した令和2年度受賞イベント2件及び令和4年度受賞イベント1件を実施しています。



最優秀賞

「みなとの魅力 再発見事業」

関門橋開通50周年記念イベント

会 員：北九州市(福岡県)

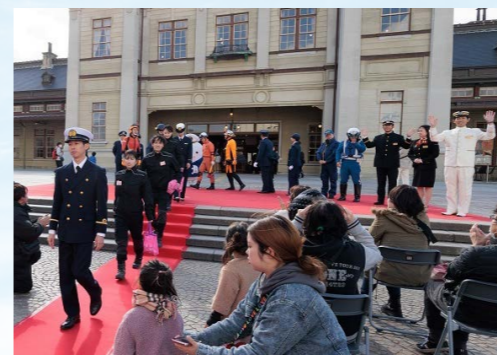
開催日：令和5年11月12日(日)

概要：山口県下関市と福岡県北九州市を結ぶ「関門橋」が、1973年11月14日の開通から2023年に開通50周年の節目を迎えるにあたり、同時開催の「北九州港開港記念イベント」等と連携して、50周年記念イベントを開催しました。

「北九州港開港記念イベント」では、NEXCO西日本等とのコラボレーションイベントを含め、市民に橋のかかる門司港の「みなとや橋のある風景の素晴らしさ」や「船舶や海の仕事」等の「みなとの魅力」を再発見し、体感していただくことを目的に、船のフェスタイベントや海で働く人の制服ファッションショーなど、様々なイベントを実施しました。11月18日(土)、19日(日)の2日間で約3.4万人が来場し、多くの方に「みなと」や「橋のある風景」等の魅力を体感してもらいました。



お船フェスタ



駅前イベント「海で働く人の制服ファッションショー」



優秀賞

「第3回 市民おさかな感謝デー」

会 員：中津市(大分県)

開催日：令和5年11月26日(日)

概要：本イベントは、令和3年に8月30日を「中津ハモの日」として(一社)日本記念日協会に認定されたことを記念し、実行委員会が、中津のハモの美味しさを広め、魚食普及につなげることを目的として開催しています。実行委員会が、中津のハモの美味しさを広め、魚食普及につなげることを目的としてイベントを開催しています。

令和5年度は、令和6年度に開催される「全国豊かな海づくり大会」を盛り上げるため、海づくり大会と絡めてイベントを開催。ステージイベントの開催や魚と触れ合う事が出来るプールの設置をしました。

会場では地魚(鮮魚)や干物などの水産品の販売、寿司バイキングやアユの塩焼きなど飲食物の販売も行いました。また、農産物や市内飲食業組合と協力し、鰻カツカレーなど地魚を使用した飲食物の販売も行いました。



豊前海の魚を入れて子供たちが魚と触れ合うプー



ステージイベント



最優秀賞

令和2年度 「第35回 よりしま海と魚の祭典」

会 員：浅口市(岡山県)

開催日：令和6年2月4日(日)

概要：瀬戸大橋の見える海と太陽の町「よりしま」のイメーシ高揚と浅口市寄島町の中心産業である漁業の振興・魚介類販売上の付加価値向上及び農業をはじめとする地場産業のPRを目的としたイベントです。特に寄島漁港で水揚げされたばかりの寄島ガキをはじめ、ワタリガニ・シヤコなど地元の新鮮な魚が安価で多数販売されました。また漁協によるミニ競り市、地元団体による和太鼓の演奏などのアトラクションも開催されました。昭和60年から始まり今回で第35回を迎え、今回も約10,000人の来場者が訪れ、地域の活性化に繋がりました。



水揚げされた寄島ガキ



和太鼓の演奏



奨励賞

令和2年度 「風早の郷ふわり 納涼花火祭り」

会 員：松山市(愛媛県)

開催日：令和5年8月27日(日)

概要：日頃、「道の駅風早の郷風和里」をご利用いただいているお客様やご支援いただいている地域の皆様への感謝を伝えるとともに、賑わいを創出し風早の郷ふわり協同組合の組合員と地域の方の交流促進や地域コミュニティの活性化を図ることを目的に、開催しました。4年ぶりのフルイベントでの開催でしたが、納涼祭や5050発の花火に加え、舞台では6つの演目が演じられ、ふれあい広場では2台のキッチンカー、13の出店が地元食材を調理販売、そのうち役員たちが、おでん、ビール、ソフトドリンクを販売、青年部による射的の催しなどを行いました。2000人を超える人にご来場頂き、過去最大の集客を記録し、地元が大きく盛り上がりました。



花火打ち上げ



納涼祭



奨励賞

令和4年度 「第35回記念 トライアスロン中島大会」

会 員：松山市(愛媛県)

開催日：令和5年8月26日(土)・27日(日)

概要：トライアスロン中島大会は、昭和61年に四国で初めて、全国でも4番目に古い大会として開催しました。当初から民・官・地域が協働した手作りの大会というコンセプトを一貫しており、多くのボランティアに支えられながら年を重ねることで、大会に関わる多くの人々と選手が感動を共有できる全国屈指の歴史ある大会に成長してきました。新型コロナウイルス感染症の影響により4年ぶりの開催となりましたが、地域(島)外から多くの方にご来場して頂きました。トライアスロンには291人、ジュニアアクアスロンには29人参加、ボランティア数約700人、観戦者数約900人と多くの方がイベントに関わり、盛り上がりのあるビッグイベントとなりました。



トライアスロン



ゴール地点



最優秀賞

「せとうち みなとマルシェ」

(今治市)



優秀賞

「深日漁港 ふれあいフェスタ」

(岬町)



奨励賞

「みなとハロライン 2024」

(北九州市)

「海ネットサポーター提案事業」

官民連携による瀬戸内の新たな賑わいを創出するため平成23年度に制度化された「海ネットサポーター」は、設立当初の55団体から97団体（令和5年度総会時点）にまで拡大しています。

「海ネットサポーター提案事業」は、行政機関である会員と民間の海ネットサポーターが連携して実施する瀬戸内のブランド化に向けた地域振興への取り組みに対して支援を行うものであり、令和5年度は3件の事業を実施しました。

客船フェスタ2023

会 員：神戸市

海ネットサポーター：一般財団法人神戸観光局

開催日：令和5年7月23日（日）・24日（月）

概要：より多くの市民にクルーズ客船や港の魅力を伝えることを目的に「客船フェスタ2023」を開催しました。クルーズターミナルにおける感染拡大予防ガイドラインが廃止されたことを受け、約4年振りにポーターミナルを会場に、クルーズ客船の入港にあわせて実施しました。また、今回初めての試みとして2日間の日程で開催し、訪れていただく機会を増やすことで、多くの方にクルーズ客船や港に親しみ、魅力を感じていただくことができました。



客船フェスタ2023 開催状況

大島瀬戸のうずしおクルーズ & 体験ツアー

会 員：柳井市

海ネットサポーター：大島観光協会

開催日：令和5年9月16日（土）

概要：柳井市と海ネットサポーターである大島観光協会が連携し、柳井市周辺の「海・食・自然（花）」すべての魅力を存分に感じてもらうためのツアーを実施しました。クルーズに乗り、大島瀬戸の渦潮を間近で見ることができ、海の雄大さを感じてもらい、その瀬戸の荒波にもまれ身の引き締まった柳井市（大島）の名物「鯛」を使った昼食を食べてもらいました。その後、花くるりんがシンボルの「山口フラワーランド」で多肉植物を使い製作体験をしてもらいました。



大島瀬戸のうずしおクルーズ&体験ツアー 開催状況

SETOUCHI PORTO MERCATO 「せとぼる」2023

会 員：竹原市

海ネットサポーター：株式会社いいね竹原

開催日：令和5年11月12日（日）

概要：「食・癒し・学び・遊び」の4つをテーマにした瀬戸内の魅力を市内外に発信し地域活性化に寄与することを目的に実施しました。竹原・大崎上島の広域連携による瀬戸内海産物「牡蠣・車海老」をはじめ、瀬戸内の風土を感じる特産品を集め、「海の恵み」を感じるマルシェを開催したり、竹原・大崎上島を結ぶ定期船と連携して「のっとくクルーズ」に乗船できる企画やバンカーサプライトと連携して、30分程度のクルージングを行いました。今回で5回目の開催ですが、リピーターの来場者も多く、「瀬戸内の恵み」を多くの方に感じてもらう事が出来ました。



SETOUCHI PORTO MERCATO 「せとぼる」2023案内チラシ及び開催状況

環境事業委員会

リフレッシュ瀬戸内

「リフレッシュ瀬戸内」は、瀬戸内・海ノ路ネットワーク推進協議会を広く一般に知ってもらうとともに、海浜の清掃活動という「誰もが参加しやすい活動」を通じて、美しい瀬戸内を守っていくことを、参加者はじめ、多くの人々に訴えていくことを目的に、協議会の骨格事業として取り組んでいる活動です。平成5年から始まった「リフレッシュ瀬戸内」は、令和5年度で30回目を迎えました。令和5年度の開催においては、実施規模も新型コロナウイルス感染拡大以前の状態に戻りつつあり、計213箇所において、およそ2万1千人のボランティアにより175トンのゴミを回収しました。

高砂市

（県立高砂海浜公園、向景公園 加古川河口部）

全体拠点地の兵庫高砂市では、7月23日（日）9時～10時20分に約300人のボランティアが参加し、約0.59トンのゴミを回収しました。また、当日は海岸清掃に加え、アマモの移植体験を含むブルーカーボン育成講座「海ごみ（海洋プラスチックごみ）削減に向けたペットボトルリサイクル事業の紹介及びごみ減量化に向けた高砂市指定ごみ袋制度の周知（サンプル配布あり）」を行うなど、環境関連活動も実施しました。

参加者からの意見

- ・砂浜が思っていたよりも綺麗で嬉しかった。
- ・プラスチックの小さくて細かいゴミが多いと感じた。
- ・海上にて清掃活動を行ったが、発泡スチロール等のゴミが浮遊しており、定期的に清掃を行いたい。
- ・ゴミ拾いに見える化するアプリがあること知ったので、普段もゴミ拾いを行いたい。

ブロック拠点地

愛媛ブロック

会 員：西条市

（高須海岸）

7月2日（日）8時～9時半、高須海岸において清掃活動を実施しました。500人の参加があり、約2.9トンのゴミを回収しました。

参加者からの意見

- ・毎年多くのごみを拾いますが、そのたびに日々の生活からごみの削減に努めなければいけないと思います。
- ・環境問題について子供が意識するいい機会になったかと思えます。
- ・たくさんごみが落ちていたので頑張って拾いました。自分は絶対に捨てないようにしようと思いました。

ブロック拠点地

和歌山ブロック

会 員：和歌山市

（加太海岸）

6月18日（日）9時～10時、加太海岸において清掃活動を実施しました。約350人の参加があり、約2.9トンのゴミを回収しました。

参加者からの意見

- ・コロナ禍も落ち着いてきたので、今年は海水浴客も増えると思う。この綺麗な状態を維持してほしい。
- ・ひとりでも多く、砂浜を綺麗にしようという意識をもってくれたら嬉しい。
- ・参加者が例年より多く驚いた。この活動が広まれば嬉しい。

ブロック拠点地

広島ブロック

会 員：安芸郡坂町

（坂海岸全域・坂町海域）

7月2日（日）12時半～13時半、坂海岸全域・坂町海域において清掃活動を実施しました。約1000人の参加があり、約6トンのゴミを回収しました。

参加者からの意見

- ・いつも利用している海岸で、ボランティア（清掃）活動に参加できる機会ができました。
- ・1時間ほどの活動だったが、子供たちも楽しそうにゴミ拾いをしてくれた。今後も参加していきたいと思えます。
- ・きれいな砂浜だと思っていましたが、いざ掃除をしてみると想像以上にゴミがあることに気づきました。これからもみんなの海を大切にしていきたいと思えます。

令和5年度リフレッシュ瀬戸内実施結果

府県名	ブロック拠点	実施箇所数 (箇所)	参加人数 (人)	ゴミ回収量 (t)	
大阪府	貝塚市	5	514	1.5	
兵庫県	高砂市	23	1,525	32	
和歌山県	和歌山市	10	734	13	
広島県	坂町	29	3,148	18	
岡山県	瀬戸内市	9	2,224	5	
徳島県	徳島市	6	2,106	8	
香川県	小豆島町	53	5,263	38	
愛媛県	西条市	64	3,191	38	
周防灘	山口県	14	2,745	22	
	福岡県・大分県	宇部市	—	—	—
合計		9市	213	21,450	175

海の健康診断調査

平成14年度から「リフレッシュ瀬戸内」の期間に合わせ、**「ゴミを捨てない」「ゴミを捨てさせない」というゴミ排出抑制につながる予防的な取り組みを推進させるため「海の健康診断調査」(ゴミの組織調査)を実施しています。**昨年度はコロナ以降3年ぶりの実施だったため計4箇所での実施にとどまりましたが、令和5年度では計9箇所において実施しました。実施結果につきましては、発泡スチロールが全体のほとんどを占める結果となっています。今後もより多くの場所で行き続き調査を行い瀬戸内に住む人々のゴミに対する意識向上及び情報発信によるゴミ排出抑制に取り組んでいきます。

海岸別プラスチック率及び素材別割合

	プラスチック率		金属	ゴム	木材(自然物以外)	紙	ガラス類	布	雑素材	合計
	プラスチック類	発泡スチロール								
岬町	64.3	62	2	33	0	0	1	0	1	100
*1 西宮市(第1回)	81.3	67	14	3	0	0	8	6	0	100
*1 西宮市(第2回)	79.0	42	37	1	0	0	5	14	0	100
和歌山市	100.0	92	8	0	0	0	0	0	0	100
*2 廿日市市	100.0	0	100	0	0	0	0	0	0	100
倉敷市	100.0	100	0	0	0	0	0	0	0	100
玉野市	71.4	71	0	0	0	0	14	0	14	100
徳島市	37.5	38	0	13	0	0	0	0	50	100
西条市	81.8	73	9	9	0	0	9	0	0	100
岩国市	84.6	69	15	0	0	0	8	0	8	100
*3 合計	100.1	0.2	99.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

*1 15m×5m=25㎡加算で算出
 *2 発泡スチロールについては、体積から換算で算出
 *3 プラスチック類及び発泡スチロールを除くゴミについては、四捨五入の関係で0.0%と表記している。



海の健康診断調査 玉野市(写真左側)・岩国市(写真右側)の開催状況
 海の健康診断調査 倉敷市(写真左側)・廿日市市(写真右側)の開催状況
 海の健康診断調査 和歌山市(写真左側)・西宮市(写真右側)の開催状況

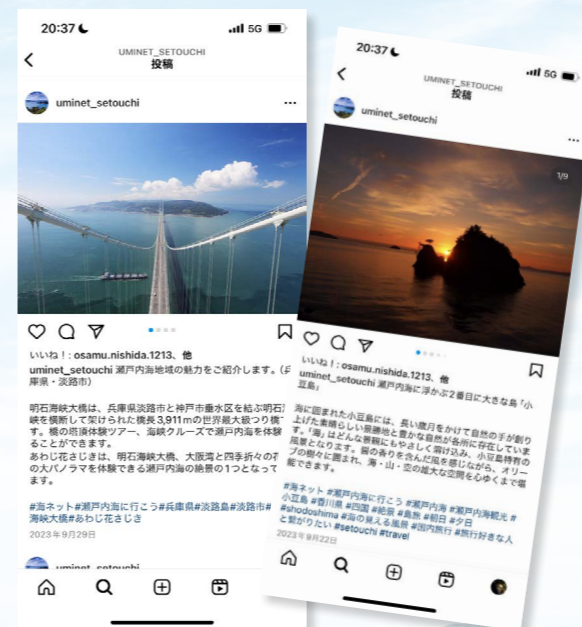
情報発信委員会

WEBサイト「海ノ路」及びSNSを利用した情報発信について

情報発信委員会では、WEBサイト「海ノ路」の閲覧者を増加させ、より多くの方々に瀬戸内海の魅力を発信するために内容の充実を図っています。特に各会員自身により情報発信が可能なWEBサイトとなつていくため、各地で開催されるイベント情報をはじめとして、各地の魅力を自由に発信することができ、WEBサイト「海ノ路」は月に約1万件の閲覧があり、直近では僅かに減少したものの閲覧数は年々増加傾向にあり、各会員が発信する情報が閲覧者の目に留まる可能性も高まっています。

令和5年度は、前年度に引き続き、会員が、必要なタイミングで情報発信できるように、各地のイベントの年間予定を予め集約し、その情報をもとに当サイトへの掲載を促すなど、情報発信の強化に取り組まれました。

また、新たな取り組みとして、最新のSNS利用者増加を踏まえ、令和5年9月に海ネット公式SNSアカウント(Instagram、X)を開設しました。Instagramは画像を中心に瀬戸内海の魅力を発信し、Xではイベント情報の発信を開始しています。フォロー数を増やす工夫を行いつつ、情報発信の強化を図り、WEBサイトへの誘導による新規閲覧者の獲得を目指します。



Instagram 投稿例



WEB サイト X Instagram

防災委員会

海ネット協定に基づく情報伝達訓練を実施

令和5年10月18日に「瀬戸内・海ノ路ネットワーク災害時相互応援に関する協定(海ネット協定)」の実効性の確保を目的に、協定締結共助会員78会員のうち55会員参加のもと、情報伝達訓練を行いました。

本訓練は平成25年度から毎年実施(平成28年度は熊本地震、平成30年度は大阪北部地震、7月豪雨の影響で中止)しており、前回同様、情報伝達体制の確立と迅速な応援を重点項目として実施しました。

今回の訓練では、地震により災害が発生し、3市から応援要請があったことを想定して、協定締結会員間における情報伝達方法について確認しました。

限られた時間の中で一連の流れを確認することから、各行程において短時間での作業が必要となります。今回は支援が開始されるまでの手続きに重点を置くこととし、受援後の処理部分を簡略化して作業時間の確保を図れるよう計画しました。また、メールリングリストでのやりとりや様式の工夫、WEB会議システム(Microsoft Teams)を使った情報共有などを行いました。

訓練後に実施したアンケートでの意見については、次年度以降の訓練にむけて検討していきます。

瀬戸内海クルーズ推進会議

第7弾セミナー・商談会

令和5年12月6日(水)・7日(木)の2日間にわたり、東京T.K.P.田町にてアフターコロナにおける新たなクルーズ誘致活動として、セミナー及び商談会を開催しました。

本誘致活動には、邦船社・外国船社・旅行会社・ランドオペレーターから8社が招聘され、自治体・観光協会等の総勢約60名が参加し、活発な意見交換が行われた。

初日は、招聘者によるセミナーが開催され、令和5年のクルーズ寄港を振り返り、乗客のニーズ、寄港地へのアドバイス及び令和6年以降の展望等が説明された。

2日目は、招聘者のセミナーを踏まえ、全13県の自治体・観光協会等から招聘した8社に対して、各地域の観光コンテンツ等のPRによる商談会が行われた。

開催日:令和5年12月6日(水)・7日(木)

【招聘者】
 ① 招聘者及び推進会議メンバーによる商談会
 ② 招聘者及び推進会議メンバーによる商談会

場 所:東京T.K.P.田町カンファレンスセンター2階
 内容:① 招聘者によるプレゼンテーション
 ② 招聘者及び推進会議メンバーによる商談会

参加者

招聘社:郵船クルーズ(株)、MSCクルーズジャパン、株カーニバル・ジャパン、シルバークルーズ(株)、JTB(株)、読売旅行、東武トップツアーズ(株)、株デスティネーションアジアジャパン
 自治体:観光協会等、広島県呉市、尾道市、岡山県山口市、柳井市、防府市、鳥取港振興会、島根県、浜田市、浜田港振興会、大阪港湾局、兵庫県、神戸市、和歌山県、和歌山市、香川県、徳島県、伊予市、宇和島市、観光物産協会、愛媛県、松山市、宇和島市、佐伯市、佐伯市観光協会、中国経済連合会、地方整備局

セミナー

JTB

- ・チャータークルーズは、船社と連携して継続したい。
- ・クルーズ事業を単純な発着商品としてだけでなく、着地コンテンツ、インパウンド、地域活性化事業等、横断的な取り組みを行ってほしい。
- ・JTBが保有する各機能(店舗・コールセンター・WEBなど)を有機的に活用し、船社特性とお客様ニーズをマッチさせる商品造成及び売り方を構築していただきたい。
- ・船社との戦略的業務提携を軸に、新たな航路、寄港地開発、着地コンテンツの開発を行ってほしい。

読売旅行

- ・日本人には、料金が分かりやすい(追加料金の無い)パッケージツアーのニーズが高かった。
- ・アプリ(バス停や観光地への距離の検索)、Wi-Fi環境の整備が必要。
- ・高齢者のお客様も多いため、デジタルだけでなく、紙媒体の対応もほしい。
- ・御朱印帳ならぬ、クルーズ・寄港地印帳(案)などを展開したら面白い。

東武トップツアーズ

- ・クルーズ船社と旅客のニーズは把握していたが、地元のニーズ(観光素材)を分かっていたがなかった。
- ・寄港地の団体観光ツアーが3割程度であり、残り7割は個人旅行の少人数行動型に変化している。(個人向けの商品開発が必要)
- ・高価な商品ほど、地元のことを良く知っている良質な観光ガイドの確保が必要。

ディステーションアジア

- ・コロナ後は、探検ツアー等、人との交流や自然体験が出来るとの傾向がある。
- ・リピーターのクライアントは、新たなキラーコンテンツを望まれている。(地域の独自性・ストーリー性のあるもの)
- ・観光コンテンツに加えて、お客様の経験を深めてくれる優秀な観光ガイドの手配が重要である。

MSCクルーズ

- ・関係者の皆様のご協力により、日本国内に向けたオリジナル商品を開発した。新しい試みとして、レガクルーズ等やNetflix等のメディアを使った情報発信も行ってほしい。
- ・寄港地はリスト化して評価を行っている。サポートして頂いた港への恩は忘れない。
- ・新しい港への寄港地にチャレンジしていきたい(沖縄那覇発着、石垣島、宮古島等)。

カーニバルジャパン

- ・ダイヤモンド・プリンセスの客層は、外国人約45%、日本人約55%で、日本人の約65%はパッケージツアー(Wi-Fi付・ドリンク付き等)を好む。
- ・今後は、停泊して寄港地をゆっくり楽しめる停泊ツアーも検討するのと良い。
- ・港は電気供給等、未来に求められるインフラ整備が必要。
- ・町を挙げての歓迎はありがたいが、一過性ではなく継続的なサービスが重要。

シルバークルーズ

- ・探検クルーズ船(自然体験・学びのツアー)のニーズが高い。
- ・現状、外国人には都市型(キラーコンテンツ)が人気が高く、地方は同じ内容に見えて、印象に残っていない。
- ・通訳ガイドの英語力が韓国と比較すると低い。
- ・万博との連携が無い。当社は、モナコのF1やリオのカーニバル等の連携を行っており、祭りと連携は重要である。

郵船クルーズ(代理:WAVE)

- ・クルーズ再開にあたり、バスや観光ガイドの手配が困難で、入港出来ない場合もあったため、スケジュールを組むのに苦労した。
- ・寄港地と連携し、地元の食材(果物・海産物等)をPRしたい。
- ・飛鳥IIIが2025年に就航予定なので、各港と連携したい。

商談会

- ・商談会では、各自治体等からパンフレットや動画等を使った熱心なプレゼンが行われ、各地域の観光、体験イベント、グルメ等が紹介され、活発な意見交換が行われた。
- ・招聘者からは、「日本が世界に誇れる文化、自然、産業等がある瀬戸内海の魅力を伝えたいと思った。」「最新の観光・港湾事情に関する情報等を提供頂き、今後のクルーズスケジュールの造成等の参考になる。」等、ありがたい感想を頂いた。
- ・また、外航クルーズ船の誘致を目的とした商談会を行うのであれば、英語資料は必須であり、商談会後に関係者へ情報共有することもあるため、商談会の場だけで情報が途絶えてしまうのは、勿体ないとの貴重なアドバイスを頂いた。



